河南省済源・沁陽石刻調査報告

櫻井　智美

はじめに

2008 年 8 月 30 日から 9 月 3 日にかけて、中国河南省済源市と沁陽市等において石刻を中心とする現地調査を行った。科研費・若手研究(B)「モンゴル時代初期中国黄河流域支配の政治史・文化史的研究」に基づく。調査にあたっては、久保田和男氏（長野工業高等専門学校）及び苗書梅氏（河南大学）の協力を得た。困難な日程の中、最良の調査環境を用意していただいた先生方に、最初に謝意を表したい。

本稿では、最初に調査日誌をまとめ、次に、2004 年の予備調査と比較しながら 2008 年の調査成果をまとめたい。2004 年の予備調査については以前報告したことがある[1]。なお、舩田善之氏（九州大学）と井黒忍氏（京都大学）も、科研費・基盤研究(B)「中国社会へのモンゴル帝国による重層的支配の研究　元朝史料学の新展開をめざして」（代表：龍谷大学村岡倫）＝本誌発行者に基づき、ほぼ同時期に同地を調査されている。両氏らによる 2004 年の調査成果もすでに公表されており[2]、2008 年度調査の概要もいずれ報告されるだろう。また、2008 年 7 月に調査を行った四日市康博氏（東京大学）にも関連する日記がある[3]。併せ参照されたい。

1．調査日誌

30 日(土)

成田空港より上海虹橋空港を経て、16:40 鄭州新鄭国際空港に到着。空港よりタクシーで開封へ。18:40 開封城内に入ったところで、運転手の押しに負けて現地のタクシーに乗り換え、初乗り 5 元で金元快悦大酒店に到着。開封の風景は杭州の街並みを思い起こさせる。ホテルではすでに苗先生が待っていた。19:15 苗先生とタクシーで鼓楼広場に到着。途中、苗先生がガイドをしてくださった。屋台街を横目に天中大酒店の 2 階から下の情景を眺めつつ夕食。20:30 先生の教え子で研究室講師の劉百陸さんも合流。開封や河南の歴史や現在の様相の話で盛り上がる。とりわけ、開封のユダヤ人の歴史はおもしろかった。21:45 タクシーでホテルへ戻る。23:30 日記をまとめ就寝。

31 日(日)

この日は、開封における宋元遺跡の現況の踏査と、済源への移動を予定。7:30 苗先生の学生郭艶艶さんと朝食。一日ガイドを頼む。8:00 出発、徒歩で延慶観へ。開封府（新

---

1 拙稿「中国における蒙元史研究の現状と石刻調査の意義―元史学会参加及び北岳廟・隆興寺・済源市の石刻調査をとおして―」、『東アジア石刻研究』創刊号、2005.12、15-11（逆 116-120）頁。

2 井黒忍・船田善之・飯山知保「山西・河南訪碑行報告（附：山西・河南訪碑行現存確認金元碑目録）」、『大谷大学史学論究』11 号、2005.3、117-156 頁。

3 「四日市康博の研究室」「研究生活」http://www.geocities.jp/yoccaici/Diary/diary200807.html

築）の前で地図を購入。延慶観の門票は 15 元、解説は無料。延慶観はオゴデイ時代に建てられた。玉皇閣は元代の建物とされる。20 世紀に入ってから、貯まった黄河の泥を掘り起こして修復を施されたらしい。大相国寺（清代の建築）までタクシーで移動。延慶観も相国寺も、農暦の 8 月 1 日（初一）ということで、かなりの人出。開封で最大の相国寺には初一、十五には開封中の人が参拝に訪れるとのこと。入場券は 30 元、年間許可証は 35 元。山陜甘会館（清代の建築）は 20 元、解説も 20 元。宋代の開封を思い起こさせる衣装を着たガイドさんが、少し早口でガイドしてくれた。たくさんの彫刻があってとてもきれい。戯台では毎年 3 回劇が行われていたらしいが、最近はなくなっている様子。歩いてホテルへ戻り、チェックアウト。

繁塔（宋太宗太平興国 2 年）は 10 元。塔内の階段の上部には、創建時石材を布施した人物名が彫られており、他の彫刻と合わせて一級の史料である。観光客はほとんどいないが、ここが開封で最も歴史的には重要と思われた。すでに 13:00 で食事にするか迷ったが、鉄塔（宋仁宗皇祐年間）へ。河南大学の東門で開封の明代城牆を見て、中の礼堂のところを通って鉄塔へ。門票は 20 元。13:30 大学前の食堂で食事をとり、タクシーでホテルへ。荷物を受け取ってから相国寺バスターミナルへ。14:15 相国寺バスターミナルで鄭州行きの切符を購入。7 元。15:10 並んで 4 台目のバスにやっと乗車。17:10 鄭州到着。済源行きの切符を買うと、18:40 出発とのこと。46 元。乗車まで郭さんが付き添ってくれた。中国のバス移動は時間ロスがつきまとう。21:30 済源市長距離バスステーションよりタクシーで雅士達酒店に到着。苗先生の元学生范建民さんが迎えてくれる。地元の蔡さんの運転する一汽一大衆の新車で、屋台へご飯を食べに出かける。22:45 ホテルに戻って休む。2:30 就寝。

1 日（月）

7:30 起床。8:00 朝食。9:10 范建民さんと出発。9:20 済渎廟に到着。河南大学出身で済渎廟処長の馮軍さんが不在のため、職員の郭方さんが案内してくれた。前回来た時見損ねた碑を中心に、新しく運び込まれた碑を確認。紫微宮から運び込まれた物以外、柏林村の長春観、下観村の霊都観、近くの奉仙観や延慶寺からも碑が運び込まれていた。紫微宮からも元碑の多くが運ばれたと思われる（郭方さんの話では、紫微宮には清代の数碑を残すのみらしい）。2004 年に廟内碑亭にあった 6 つに加え、26 の碑が並んでいた。損壊・摩滅の激しい碑やガラスがかかった碑の一部には拓本が添えて展示してあった。紫微宮からの碑の搬入には、2008 年 6 月に現地で開かれた道教学会の際に、碑をきちんと保存すべき声があがったことが関連しているとのことだった。その後、最も気になっていたこと、つまり、4 年前広生殿の裏に放置してあった残碑について尋ねたところ、「何もしてない」との返事だった。見に行くと、丈がさらに高い草で覆われていた。郭さんがスコップを準備し、范さんが草をはぐってくれたが、保存状況に変化はなく新しい情報も得られなかった。碑亭を見学しつつ、この後の計画を相談した。ここまでで約 2 時間。陽台宮の碑が運び込まれていないことを見て、先に現地に行くことを決定。馮軍さんに渡して欲しいと、関連する拙稿 2 篇の抜刷を手渡した。

11:05 済涜廟を出発、歩いて先に奉仙観へ。11:25 到着。ちょうど修復の最中。奉仙観で確認したかった「創建□清観碑(金代、礼部尚書牒)」は見つからず。4 年前に見た観音らしい図像のある碑は三清殿の中へ移されており、あるいは重なっていたもう一つのものか。殿内を見学。ここに運び込まれていた「霊都観万寿宮図碑」は済涜廟の碑廊に移されていたため、4 年前「もともとの廟内で、現在は廟外となった、公開していない所にある」と言われて見られなかった「崇寧葆光大師衛公道行碑」について尋ねてみると、門に向かって右にある店の裏へ連れて行ってもらえた。文物局を通じて連絡してあると明らかに対応が違う。ちょうど碑陰が見えるように立っていた。塀との間に隙間があり、何とか碑の両面を調査できた。12:00 門前の食堂で昼食。13:00 150 元でタクシーを貸し切り陽台宮へ。タクシー内で調査の結果をまとめ、少し休息。14:00 到着。門票 10 元。玉皇閣裏に立っている元碑を再確認後、未発表の聖旨碑を探す。もとあったところにはない。ひどいことに、太陽に当たるところに野ざらしでテーブルのようにしておかれていた。4 年前より傷みが激しい様子だった。馮軍さんに保護を頼もうと思ったが、済涜廟で後から聞いたところでは、陽台宮には独自の管理処があり済涜廟とは関係がないとのことだった。やはり、4 年前と同じく、廟の管理者と直接話をしなかったことが悔やまれた。井黒忍氏より聞いていた元碑は階段の土台に転用されており、「大元大徳十年三月吉日」・「副宮」・「知宮」のみ読み取れた。

今回の調査では、文物局で碑や拓本の保存状況などについて聞き取りをしたいと思っていたため、市街に戻ってから連絡してあった文物局の段局長に電話すると、「博物館の中は整理ができておらず、博物館の閲覧は認められないが、代わりに、段さんのパソコンに入っている元代に有用な画像をすべて送ってくれる」とのことだった。范さん経由で連絡があるのを待つことにした(帰国後数枚の既発表拓本の画像を受け取った)。済涜廟に向かう。15:50 済涜廟に到着して郭方さんに連絡。碑廊での写真撮影が目的だったが、副処長の姚永霞さんも一緒に来てくれた。済涜廟に 10 年働いているという姚さんは、自身は研究者ではないと謙遜されたが、いろいろな情報を提供してくれた。17:30 まで話を聞きつつ写真を撮った。その後彼らのオフィスでさらに話を聞いた。お礼というのは変だが、元代の済源関係の拓本(北京図書館所蔵拓本)コピーを渡した。なかなか地方では手にいれにくいことがわかっていたからである。18:20 ホテルへ戻って次の日の計画を練る。19:00 ホテル近くの南蟒河沿いの屋台へ向かう。20:00 過ぎから范さんの友人が次々に参会した。21:30 挨拶してホテルへ戻る。22:30 頃就寝。

2 日(火)

6:30 起床。7:10 朝食。8:35 范さん来る。8:45 チェックアウトして、タクシーで沁陽へ。70 元。9:45 沁陽市博物館(天寧寺三聖塔博物館)に到着。博物館はちょうど修理中で建物内は見られず。職員の賈さんが外部を案内してくれた。歴史の古い河内の中心のことだけあって、唐代の遺物も多く、また有名な明清時代の書家もいるらしい。いろいろ説明してくれたが、固有名詞の多い説明には全くついていけない。ひとまずこちらの目的を伝え、元代の遺物について紹介してもらった。まず、金代建造の三聖塔と、

郊外から運び込まれていた泰定2年の邠国公塔、及び各時代の石像・石刻を集めた河内石苑を見て回った。その後、入口に近い碑亭に並んだ碑を丹念に調査した。金碑（碑陽は陀羅尼経(？)、裏は上段が尚書省の牒、下段は関係者人名）が1つ、元碑が2つ。元碑「重修真沢廟記」は大徳7年の地震について記しており、学術価値も高いとの説明だった。碑亭は煉瓦で固めた簡単なつくりのもので、風雨や日光・大気汚染の影響を避けるため、新しい博物館の建物ができあがったら中に陳列する予定とのことだった。実際に碑刻の下部は風化が進んでいた。写真を撮影してから、11:20 タクシーで映画館の前へ。「懐慶路総管署記碑」を調査する。屋台の建ち並ぶ横に、何の保存処理も施されず風化が進み、碑から文字を起こすのは相当困難な様子であった。新博物館が立ったら、こちらも中に入れてもらえるのだろうか。一応写真を撮る。11:40 范さんの友人たちと14:00まで昼食。前日計画していた、15:00までに博愛に行って帰ってこられるという淡い期待は消えた。15:30 鄭州へ向かうバスに乗車。図らずも慢車（高速を使わず一般道を通る)。保険込みで36元。范さんが自宅のある博愛で下車後、車内で流されていた「赤壁（レッドクリフ)」・「Attacking to the Amazon 走遍アマゾン」のビデオを見て時間をつぶす。19:30紅珊瑚酒店着。范さんと苗先生・日本への電話をかけて、夕食などの調達に外へ。ケンタッキーのバーガーセットをテイクアウト。21:00 夕食、シャワー、ちょっとした整理をしていると、4時間のバスがたたったのか軽い腹痛。休息。23:30 目が覚めても寝続けることに。何度も目が覚めて、結局5:00に起床。

3日(水)

6:30 鄭州へ向けて、民航の空港バスに乗車。保険を入れて16元。7:10 空港へ到着。搭乗手続きの後、本屋とおみやげ店で少しお買い物。8:55鄭州新鄭国際空港を離陸、上海虹橋空港を経由して帰国。

近日、済渎廟の姚永霞さんからメールを受け取った。今後の研究成果は、逐一連絡したいと返信した。今回調査した碑刻には内容が未発表のものもいくらか含まれているため、現地と連絡をとりながら研究を進めたい。

また、今回の調査でも2004年と同じく『中国文物地図集』河南分冊（中国地図出版社、1991.12、以下「文物地図」）を多用。しかし、本書はシリーズ中でも古いものに属し、内容は1980年代後半の調査に基づいているため、今回実際に調査を行うと道路や博物館の新設・改変だけでなく、文物の保存場所にも大きな変化があった。地図・住所と簡単な説明により目的地に到達できる強みは依然持つものの、調査に当たってはかなり古い情報となっている。新たな情報をまとめた書物の出版を期待したい。

2．碑刻の現状

今回の調査で実見した金元時代の碑刻について、調査の場所ごとに、碑陰について、立碑場所など、碑刻の現状について肝要な情報をまとめていく。関連資料については、

便宜上、「文物地図」以外では、「北図[4]」・「翰墨[5]」・「白話[6]」・「道家[7]」所収のものに限って言及する。碑の中には、政治史・道教史・地域史・言語・文書行政ほか様々な面で重要な意義を持つものもあるが、本稿ではそれらには一切触れないこととする。

済涜廟（金碑 2、元碑 13、下線は 2004 年時点で済涜廟では見られなかったもの）

1，済源県創建石橋碑（大定 20、1180）　碑陰なし、碑廊左 7[8]

2，重修済涜廟碑（正大 5 年、1228）　碑陰なし、碑廊左 3

3，皇后懿旨碑（庚子年、1240／甲戌年、1250）　上下截、碑廊左 29（紫微宮より搬入）、道家 480、白話 7（上截写真）、文物地図は「大徳 4 年(1300)、至大 3 年(1310)」・「八思巴文」などと誤る

4，霊都観万寿宮図碑（乙巳年、1245）　碑廊左 13、碑陽上截は「広玄真人」遺頌と真人像、下截は「提点陝西教門重陽宮事」綦志遠の発給文、碑陰は観図、道家 484、文物地図は「大徳 8 年(1305)立石」と誤る

5，通真子墓碣銘（戊申年、1248）　碑陰なし、碑廊左 31、翰墨 6-26（紫微宮）、道家 486

6，重修天壇碑銘（乙酉年、1249）　碑陰題名不清楚、碑廊左 30（3，5，13 が紫微宮より搬入されたことが確実なため、この 6 と 8 は碑廊での並びより、やはり紫微宮から搬入されたと推測される）、道家 505

7，大朝故講師李居墓誌銘（中統 4 年?、1263）　碑陰あり、碑廊左 16、内容未検討

8，投龍簡記（至元元年、1264）　碑陰なし、碑廊左 28（紫微宮より搬入か）、道家 562、櫻井 2005[9]のリストでは漏れている

9，大朝済涜投龍簡記（至元 7 年、1970）　碑陰なし（これ以下 3 碑の碑陰がないことは副処長に確認）、回廊東側北壁

10，皇太子燕王賜香記（至元 9 年、1272）　碑陰なし、神殿東側壁、道家 1102

11，祭済涜祀記（至元 27 年、1980）　碑陰なし、回廊東側北壁、9 の右隣

12，重修長春観碑（至元 29 年、1982）　碑陰は「祖師長生輔化明徳真人」（陳徳新）の額・道統図、碑廊左 12

13，聖旨碑（大徳 8 年、1306／大徳 10、1308）　碑陰は大徳 10 年の人名、碑廊左 27（紫微宮より搬入）、道家 711、白話 51

14，投龍簡紀（延祐元年、1314）　碑陰の人名不清楚、碑廊左 4、北図 49-36

15，郭居墓誌銘（至元 5 年、1268or1339）　2004 のみ確認、東廡広生殿前に立てかけ

---

4 北図は、『北京図書館蔵中国歴代拓本匯編』中州古籍出版社、1990 の冊-頁。

5 翰墨は、『翰墨石影』（河南省文史研究館蔵悼搨片精選）広陵書社、2003.4 の冊-葉。

6 白話は、蔡美彪『元代白話碑集録』科学出版社、1955 の頁。

7 道家は、陳垣編・陳智超・曾慶瑛校補『道家金石略』文物出版社、1988.6 の頁。

8 碑廊で向かって左から 7 番目の意味。

9 櫻井 2005 は、拙稿「クビライの華北支配の一形象—懐孟地区の祭祀と教育—」、『駿台史学』124、2005.3、27-47 頁。

16，残碑　東廡広生殿うらに積まれた残碑の山の中、2004 に「達魯花赤」「懐孟路」の文字を見つけた、2008 はよりひどい状態の草の中

奉仙観（宋金碑 1、元碑 1）

1，崇寧葆光大師衛公道行碑（至元 22 年、1285）　碑陰「重修奉仙万慶之宮」、門前商店内、北図なし

2，創建□清観碑の額（尚書礼部の牒）　2004 のみ、奥東側壁付近、年代は写真からは読みとれず

陽台宮（元碑 3）

1，残碑（大徳 10 年、1306）　「知宮」などの文字

2，皇天玉皇上帝碑記（至正 4 年、1344）　碑陰「興国大陽台万寿宮」人名、玉皇閣裏手

3，皇帝聖旨碑（至正 4 年、1344）　碑陰は人名、2004 玉皇閣後壁に立てかけてある→2008 玉皇閣裏手

4，螭首のみ　片面「降香投簡之記」、片面「興国大陽台万寿宮」　2004 のみ玉皇閣裏手で確認

沁陽市（金碑 1、元碑 4、元塔 1）

1，陀羅尼碑（承安 5 年、1200）　碑陰上:諜（承安 4 年、1199）、下:「世族図序」、博物館東面碑亭

2，修真観碑（至元？？）　碑陰は道系図、博物館東面碑亭

3，重修真澤廟碑記（延祐 7 年、1320）　通称「地震碑」、碑陰は人名、博物館東面碑亭

4，残碑（大元至？？）　博物館三聖塔前に放置

5，邠国公塔（泰定 2 年、1325）　博物館碑廊奥、三聖塔手前

6，懐慶路総管署記碑（至正 11 年、1351）　沁陽映画館前、北図なし

（さくらい　さとみ）